【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成20年4月17日(2008.4.17)

【公開番号】特開2006-218267(P2006-218267A)
【公開日】平成18年8月24日(2006.8.24)
【年通号数】公開・登録公報2006-033
【出願番号】特願2005-68085(P2005-68085)
【国際特許分類】
Ａ４７Ｇ　33/00　(2006.01)
Ｆ２１Ｖ　33/00　(2006.01)
Ｈ０５Ｂ　37/02　(2006.01)
Ｆ２１Ｓ　6/00　(2006.01)
Ｆ２１Ｓ　9/02　(2006.01)
Ｆ２１Ｙ　101/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ４７Ｇ　33/00　Ｄ
Ｆ２１Ｖ　33/00　Ｚ
Ｈ０５Ｂ　37/02　Ｅ
Ｈ０５Ｂ　37/02　Ｆ
Ｆ２１Ｓ　1/12　Ｅ
Ｆ２１Ｓ　9/02　Ｕ
Ｆ２１Ｙ　101:02

【手続補正書】
【提出日】平成20年1月30日(2008.1.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ローソクを模した発光部と、この発光部をＯＮ状態にするためのスイッチと、所要の電力を供給する電源とから成る燈明装置に於いて、更に硬貨等の金の投入口と、タイマーとを備えており、前記スイッチはセンサースイッチであり、このセンサースイッチは前記投入口への金の投入を感知して前記発光部をＯＮ状態にするものであり、前記タイマーは前記発光部がＯＮ状態になってから所定の時間が経過したら前記発光部をＯＦＦ状態にするものであることを特徴とする、燈明装置。
【請求項２】
前記タイマーは、前記発光部がＯＮ状態になってからＯＦＦ状態にするまでの時間設定が可能な時間設定部を備えている、請求項１に記載の燈明装置。
【請求項３】
前記燈明装置を複数台備えている請求項１に記載の燈明装置。
【請求項４】
前記燈明装置が複数個の前記発光部を備えている請求項１に記載の燈明装置。
【請求項５】
前記燈明装置が複数個の前記センサースイッチを備えると共にこれと同数の前記発光部を備えており、前記センサースイッチ群はこの何れのセンサースイッチが動作したかを知るための制御回路にエンコーダーを介して接続されており、この制御回路は動作したセン

サースイッチに対応する発光部をＯＮ状態にし得るようにするために前記発光部群にデコーダーを介して接続されている、請求項４に記載の燈明装置。
【請求項６】
更におみくじ収納部とこのおみくじを取り出すためのおみくじ取出口とを備えており、前記制御回路は、前記センサースイッチがコインの投入を感知したら、前記おみくじ収納部からおみくじを一つおみくじ取出口に落とす制御を行なうように設けられている、請求項５に記載の燈明装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００１】
この発明は仏前や神前に設置される電気により点灯する燈明装置に係り、特に献灯銭の投入を受けて一定時間点灯する仕組みを備えた燈明装置に関するものである。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１５】
なお前記制御回路に於いて、前記複数個のセンサースイッチ群と前記複数個の発光部群とが一対一対応するように設定することも、一対多対応するように設定することも可能である。前者の場合では献灯料が投入口に投入されると、これに対応する一の発光部が点灯する。通常は投入口の所にある発光部が点灯するように設定する。これに対して後者の場合では、献灯料が投入口に投入されるとこれに対応する複数個の発光部が一斉に点灯する。例えば上述した階段状設置の場合にこの発光部のグループを縦一列に設定する。また後者の場合、前記制御回路の設定次第で対応関係を固定することも、ランダムに複数個の発光部を選択するようにすることも可能である。なお更に上述した一対多対応の場合には、センサースイッチの数よりも発光部の数の方を多く設ける構成が可能である。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２５】
すなわち図４で示したようにケース１１はその下部に回路収容部２１を備え、その上部に疑似ローソク５とフレーム電球５０とからなる発光部を５つ備えており、また回路収容部２１には各々のフレーム電球５０に対応させて５つの投入口２０が設けられている。この各々のフレーム電球５０に対応させて各々独立した発光回路が前記回路収容部２１に納められているが、この発光回路は第１の実施形態のところで説明したものと同一のものである。なお前記フレーム電球５０はガラス球内に振動可能に設けられたフィラメント５１と、このフィラメント５１を振動させるためにガラス球（上述したボールである）外に固定された磁石５２とから構成されている。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２７】

第４の実施形態

この実施形態の燈明装置は、硬貨が投入された投入口２０が対応する横一列のＬＥＤランプ３０を一斉に点灯させるというものである（図５を参照）。発光回路は図示しないが、図３のブロック図を借りて説明すると、タイマー回路４に３つのリレー４１が接続されており、各々のリレー４１に１０個のＬＥＤランプ３０が並列接続されたものである。

【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２８】

ケース１１は３段からなり、各段に１０個の疑似ローソク３とＬＥＤランプ３０とからなる発光部が並べて設けられている。このケース１１の右側に回路収容部２２を備え、前記発光部の横一列に対応させて投入口２０が設けられている（図５を参照）。

【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３３】

第６の実施形態

さて、第５の実施形態のところでマイクロプロセッサー６とエンコーダー６１およびデコーダー６２を用いて、発光部と投入口とが一対一対応しているものを説明したが、次に説明する第６の実施形態の燈明装置では一つの投入口に対して３０個の発光部を有し、図示しないマイクロプロセッサー６でＯＦＦ状態のＬＥＤランプ３０の中から５つをランダムに選んで点灯させるように設定している点に特徴を有するものである（図７を参照）。